

「誰もやってないことをやりたい」。市成修社長(49)は今年4月、業界初という日本・中国間で携帯電話コンテンツの相互配信を始めた。中国は携帯電話の需要が爆発的に伸びており、年間500万台の新機種が登場する。ムーブは今年、会員5000万人の携帯サイトを扱う千龍社(北京市)と業務提携した。KDDI社のau携帯電話対応の中国情報コンテンツ「1000



ムーブ

携帯電話コンテンツを相互配信

「%ちやいな」(月額315円)のロト予想などのコンテンツが、中国のニュースが日本語で楽しめる。

87年の設立当初は中小企業に読めて音楽もダウンロードできるようになり、中国では日本の音楽、キャラクターの他、中国

イトハウスのホームページ。世界中のものがすぐに見られ、動物的鳴き声も聞ける。これはすごい。96年に神戸市内で初のインターネットプロバイダ事業に入れられるようにしたい」と

占いのサイトでも1日のアクセスは3000件で、同社のパソコン用サイトよりも多かった。今後は中国だけでなく、欧米

中国・千龍社と業務提携

業を始めた。

98年ごろには、テレビでインターネットが利用できる「ウェブTV」を取り扱ったが、00年に米・マイクロソフト社の子会社(当時)が日本の事業から撤退。「今後は客が絶対増えるものを」と携帯電話に目を向けた。同社が手がけた簡単なゲームや

市成社長。今後は携帯電話の多機能化が進み、「携帯がパソコンになる日が来ますよ」と予測する。

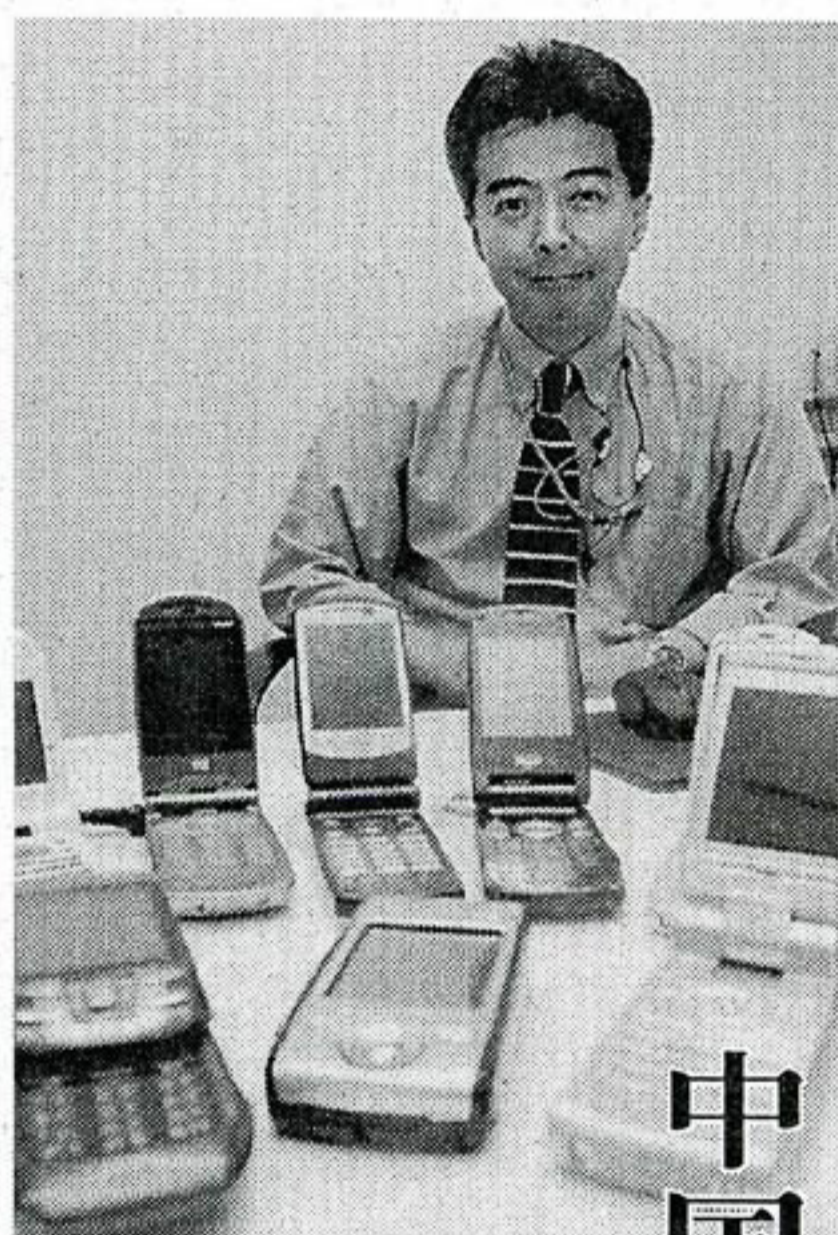
【小川昌宏】

メモ

従業員8人。資本金6000万円。神戸市中

中央区雲井通5の3の1(078

・230・4700)。



「人と仕事と技術の融合がポリシーです」と話す市成修社長